

●第12回委員会 会議要点録

平成18年3月23日 19時～21時
多摩市役所 特別会議室

出席者：檜垣正巳委員長 白鳥光洋副委員長 岡崎和子委員 小澤尚子委員 武智秀之委員 堤香苗委員

事務局：企画政策部長 企画課長 企画調整担当主査 企画課主査

次年度の自治推進委員会の取り組みについて(全般)

「自治の推進」を機軸に、8月までは自治推進委員会の答申に沿って第三者的立場での評価を行い、後半は他の課題に着手する。

評価について

対象事業：最初は次の4事業を対象に、実施しつつ調整

- 広報活動
- コミュニティセンターの運営
- 防犯対策
- 創業支援事業

事前評価：実施しながら調整(ただし対象事業に、事前、中途評価的性格のものも含んでいる)

手法：自治推進委員会の答申に沿いつつ改善

期間：8月中にまとめる。そのために、月2度程度の開催とする。

事務局 本日は委員長が遅れて来られるので、副委員長に司会を務めて頂く。

委員 来年度の予定は、前半は評価に重点を置く。6事業を9月までに評価する予定で、逆算すると月に2回程度の会議が必要。大きな枠組みとしてはよろしいか。

評価事業の選定

委員 まず評価から。

自治推進委員会の答申の方針で各委員が評価し、それをすり合わせることになるだろう。

現在10事業が候補に挙がっている(資料35)。

1. 広報活動
2. 多摩市立複合文化施設管理運営

3. コミュニティセンターの運営
4. 防犯対策
5. ごみ減量化
6. 創業支援事業
7. グリーンライブセンターの管理運営
8. 災害対策
9. 小中学校の運営に関する事業(複数)
10. 幼稚園就園奨励費補助金

各委員から候補に挙げた理由の説明を。

委員 費用削減等よりも、事業の効率・効果、多摩市の将来像に対する重要さ、等の視点で候補を挙げた。評価の結果、重点化、費用増の提案をすることもあり得ると思う。

2、3、5、6、7、10。

2、3、7は、施設運営の関係。現在、指定管理者など施設の運営方法について課題になっている。市民に管理が移ることで変わるものもあるか、と考えた。

5、10は、この予算の公平性、効果、市民生活への影響、必要性を考えたい。

6は、ボランティアで関わっているの、この予算の適正、将来性、費用対効果、他の方法の可能性など、東永山創業支援施設全体を検討したい。

特に5、6、7、10は、何をやっているのかよく見えない。

委員 1、3、9。

自治推進委員会は自治の推進が目的。何を「自治の推進」と指すかは難しいが、市民が参画するあり方を考えやすい領域の事業を選定した。

特定の市民ではなく、全体が関わる関心の高いものは、PR、教育、コミュニティの3領域。評価の1年目なので、市民の関心を喚起するようなものが適切と考える。

9、1は、関わり方は難しいが。

補助金の審査のような、厳格に評価し予算削減を目指すのではなく、もっとラフな感じで良い。市職員はまじめに細かい事を詰めているが、この委員会の設置の目的は大雑把に全体を見渡すことであり、市職員と同じことをしてもあまり意味はない。ラフに評価し、目的が評価自体ではなく自治の推進につながる。情報を得ながらコミュニケーションし、自治の推進につながるような提言を出したい。対象を6事業にこだわる必然性はない気がする。

委員 我々が出した提言に基づいて試行でする中で、改善して行けば良い。

委員 3、4、8。

いかに市民が参加しやすいか、の観点で身近な事業を選択した。市民に参画してもらい市役所と協働する中で、地域の結束までつながって行くのではないかと思

う。予算規模としても金額のあまり大きくないものにし、行政評価の叩き台を作る上で幅広い年齢の方に参画してもらおう。難しく専門知識がないとできないものでは広がって行かないので。

委員 みなさんはたくさん選ばれたが、私は3に絞った。

最も市民に近く参画しやすいところ。コミセンは地域に点在している。それを全て見るのがいいのか、どこかに焦点をあてるか、様々な方法が考えられる。

自治推進委員会が曖昧模糊として市民に見えにくい。何らかの形でわかりやすく提言していくためには、コミセンの活動を対象とするのが良いと思った。

多摩市には地域の人々の自己実現の環境が整っている。しかし市民自治となると、カルチャー的ではなく自分たちの地域を自治することが必要になる。多摩市には学校も多く若い方も多い。この委員会のテーマであるコミュニティの反映は、コミセンの中をよく見て、自治推進委員会の中に示せるものがあるのではないかと。

委員 今日の議事録をまとめると、コミセンの評価が半分くらいできるのではないかと、いうくらい、視点のポイントが出ている。全員が推薦しているのが「3 コミュニティセンターの運営」なので、これは決定として良いかという気がする。

先程、対象を6事業にこだわらなくても良いのでは、との発言があったがいかがか。

委員 優先順位を決めれば良いのでは。初年度なのでやりやすいものが良い。コンパクトで関心が共有でき、市民にも関心をもたれそうなものを。

委員 4、8は似ているので、どちらか一方を選択すればよい。4は250万、8は2300万。コンパクトなら4、重みのあるものなら8になるが。

事務局 8の防災は、防災機材の購入、訓練などが中心。関連した別の事業に、耐震などもある。

委員 防災には色々な要素が混ざっているということか。

委員 8の災害対策も、貯水槽、無線などハードが中心。

委員 市民との密着度は4防犯、8防災どちらだろう。

事務局 どちらも重要だが、今は4防犯か。世論調査でも最近防犯への関心度が高まって来ている。

委員 イメージとして災害は難しいように思える。

委員 事業の優先順を大きくA、B、Cで分けよう。これまでの話では、3コミセン、4防犯はA。

2、7は施設の管理運営という面では似ている。6創業支援も施設だが、ニュアンスが違うか。

委員 6は17年度の新規事業。予算は、コーディネイターなど人件費も含むかと思う。

委員 委員の得意分野でアドバイスが期待できるか。

- 委員 補助金については補助金全体の見直しをしているので、10はCランクに。
- 委員 1広報は、この委員会で常に話題になる。幅が広くてどこから手をつけるか、というもある。このへんも見てみると有効的な広報が見えて来るのでは。
- 委員 今のところAは1と6。事務局から何か指摘はないか。
- 事務局 特にはないが、3、4、6が同じ部に集中している。
- 委員 予算の中身を見ると、4防犯と1広報はある種リンクして来るのでは。防犯対策の費用のうち防犯カメラと危険メールの割合が大きく、あまりふくらまないことが懸念される。逆に広報は幅広く、こちらの方が良いかという感じも。
- 委員 防犯関連でこれ以外の経費はないか。この事業は防犯をするための整備に見えるが、だとすると、3との関係は薄い。予算240万でカメラ類機器があるが、関心が高いのはソフトであり活動。そういうものを提言する可能性はあるが、この予算事業の評価、と言うと限定される。防犯の意味を広げ、何かとリンクしないと。
- 事務局 子どもの安全という切り口では、教育委員会の見守りサポーターの経費などがある。16年度は防犯カメラ等機材等の整備だったが、17年度はそれは減り地域パトロール連絡協議会などが出てきている。
- 委員 不審者がかまった情報がない。警告はいいが、解決メールも見たい。
- 委員 防犯対策経費を含め、他の教育、コミセンなどに関連する防犯関連をセットで。そういう話でやっていくと、教育委員会の防犯も検討として。
- 委員 子どもの安全見守りは事業カルテではどれに含まれるか。
- 事務局 17年度の事業なので16年度決算には載っていない。
- 委員 Aはコミセン、広報、防犯で良いか。Bは4、7。
- 委員 新規でよろしければこれからの多摩市として地域の創業について6は入れていただけるとうれしい。
- 委員 1、3、4、6をAとすると、3つが同じ部だが、良いか。
- 委員 同じ部でも、防犯に教育が関わるなど別の要素も絡む。9は教育事業の根幹に関わるような大掛かりな話なので、後回しの方が良い。
- 委員 2、5、7をBに、8、9、10をCに。Aの1、3、4、6に着手し、進行状況により対象数は調整する。次回は対象事業を総ざらいする予定だが、Bまで含めて概観するか、それともAだけにするか。
- 委員 関心を持って提案された事業なので、場合によっては優先順を変える可能性も考慮し、Bまで概観して良いのでは
- 委員 その場合、どのような資料を求めるか。
- 事務局 今あるものの他、17年度予算カルテ、18年度予算カルテが共通。施設については現在作成中の施設カルテがある。又、コミュニティーセンターの年次報告書など、

個別の報告、資料がある。

委員 Bまで含め7事業とすると1事業当りの時間が20分程になるので、資料が多くて読み切れない。ビジュアル的にわかるものがベスト。文章でなくイメージで現状のわかるものを用いて10～15分で説明を受け、質疑応答もしたい。広報作成中の写真など、作業の様子などはあるか。

事務局 広報した結果はあるが、途中経過の写真はあるものとなないものがある。

委員 広報は幅が広く、全て把握するのは大変。委員会が焦点を絞って攻める方が良いのでは。

委員 10分で事業を説明できないのは、現状の現れでもある。市民に全体像の理解を求めるのは無理で、メイキングオブ〇〇といったプロセスを見せれば、自分がどこで関われるか、どこで自分が主役になれるのか、がわかって来る。例えば、正月の新年号あたりで広報の作り方をとりあげたら面白いのでは。

委員 評価を進めるためには、その場の説明だけでなく事前に資料に目を通さないと間に合わない。

委員 広報の利用、周知等についてアンケートなどで調査したことはあるか。

事務局 世論調査に該当する項目がある。

委員 そのような、市民がアクションを起こしているデータ、最も効果的な広報はどれかというようなデータがあれば。

委員 こうして話していると色々出て来る。やはり最初は4つに絞った方が良い。

委員 そういう気がする。自治推進委員会として、自治の推進を提言できるような評価の仕方が良い。

委員 新規事業も候補だが、よろしいか。基本的な方向は、将来の改善につながることを中心にとりまとめるイメージで。事務局は、事業概要、関連データ、18年度予算カルテを次回までに提示するように。

委員 関連事業があれば、それも願いたい。

スケジュールに関する決定事項

- 第1回で概観し、意見交換する。4事業各30分ずつ。
- 第1回の様子を見ながら対象事業数を調整。計7回で行う予定だが、減ることも考えられる。
- 1回2時間半程度を目安に。何回かは早目の時間で設定を
- 第2、第4週の月、木、金が基本。委員会のときに次の予定を決める。

その他関連事項

委員 市で行っている「事前評価」のイメージは。

事務局 PDCA(Plan:計画-Do:実施-Check:評価-Action:反映)の流れがあり、計画の段階で作成する事業カルテを「予算カルテ」、実施後は「決算カルテ」と呼んでいる。予算カルテが事前評価にあたり、その事業の成果目標などを書いている。自治推進委員会としては色々な切り口があると思う。

委員 流れによって、今期するかどうかを考えて行けば。

事務局 ヒアリングを組み込むか否かについては。

委員 以前の委員会で、サービス利用者の生の意見があれば、などが出ていた。必ずしもこの会議だけでなく、アンケートの実施なども考えられる。具体的に想定できるものが何かあるか。

委員 例えば、コミセンの運営委員会の方にわざわざ来ていただいて10分くらいで終わる、というわけにはいかないと思う。ある程度ピックアップしたことに対しこちらから取材に伺うなどが必要では。

事務局 意見交換程度であれば、運営協議会のみなさんが2ヶ月に1回行っている定例会で調整する可能性はある。1館ずつだと、逆に相手の方がどう思うか。

委員 今の段階だと、何をヒアリングしたいかもよくわからない。やって行く中で決まればよいと思う。

委員 どういう立場で聞くかやりにくい。

委員 東永山創業施設については、セミナーなどの場に行って見た方が良い気もする。

委員 あまり相手に負荷をかけず、必要に応じて聞く場を設けて行く。

事務局 会議の公開については。

委員 評価を公開することは難しい問題。定例会やセミナーに第三者評価として同席しても、そこの方たちが意識してしまうのでは、通常通りの意見を聞けるだろうか、と懸念される。内部的なことも聞くので。

委員 「評価」というと抵抗がある。まず意見交換が1回のハードル。原則公開が良いとは思いますが。

事務局 原則公開はあるが、理由を明確に非公開というのは可能。

委員 自治推進委員会が評価というのは特異なケース。自治推進委員会の性格上、非公開はあまり望ましくない。原則公開で、その都度非公開に、という方法で良いかと思う。

委員 創業支援、コミセンなど、直接聞く事はあまりできないかと思う。あまり気にせず、必要があれば非公開にする、くらいで始めて良い。防犯対策については、どういう犯罪が起きているか、等を聞きたい。そういう情報は次回請求することになるかと思うが、既成のデータ以外に調べてもらうことは出るかもしれない。事業の狙い、防

犯カメラの設置箇所、具体的な内容。学校の児童、生徒をどうするか。警察とどうい
う協力をしているか、全体の体制、など。

委員 犯罪の発生箇所などについてもぜひ伺いたい。

委員 防犯協会の活動はどうなっているのか、地域でも協賛金として集金されるがそれ
は何にあたるのか、などがわかりにくい。多摩中央警察署に事務局がある。ポスタ
ーも時々掲示したり、講演会をしたり。広がりのある仕事をしていると思うが。

委員 防犯だけでも結構な量の資料になる。

委員 コミセン。施設毎の利用者のうちわけ。一番利用の低いところの意見を聞く、な
ど。多摩市のコミセンは夜 10 時まで開館し、その時間の利用者はあまりいないとも
聞く。そういう実体をぜひ。

委員 委員が以前他自治体でされたコミセンの評価はどのようなものか。

委員 武蔵野市にはコミセンは20箇所ある。委員会は20回程開催した。コミセンの方と
の意見交換は5～6時間、視察も半分。「評価」と言うと最初は警戒され、その誤解
を解き相互理解するところから始めた。最終的にはコミセン毎の自己評価を一次評
価にしてもらい、それを尊重しよう、と。コミセンも、設置から20～30年たつと、同じ
人ばかりの利用になったり、ルールを守らなかつたりするケースもある。

市は、運営を運営委員会に任せて介入できないので、評価委員会が第三者とし
て関わった。運営はボランティアであり、お金をもらっていない人に厳しいことを言う
のは酷な話。

多摩市では町内会とコミセンの関係はどうなっているのか。団地の人は団地内の
集会所があるので、コミセンを使わず自己完結する傾向があるのではないか。

委員 多摩市は、集会所は年何回かしか使っていないのでコミセンと競合する関係にな
っていないのではないか。連携で考えると難しい。コミセンでも、宴会など、利用範
囲が広がれば使えると思うが、色々と制約が多い。

事務局 コミセンの運営協議会が連絡交換の場になっている。全体的なお話を聞くことが
できるかと思う。

委員 6事業の予定が4事業で始めることになったが、それでも時間がかかると思う。4
月行こうは、もう少し頻繁に開催した方がよい。やりながら考えよう。

次回の予定

- ◇ 4月24日(月曜)18時30分～
- ◇ 5月11日(木曜)開始時間は、4月24日に決定する。
- ◇ その後の開催は、開催日の二週間後の“月曜・木曜(金曜)”の都合に良い方で
開催する方向とし、日程及び開始時間は、その都度、委員会において決定する。